



カウンセリングルームだより

Vol. 31 (2011年2月発行)

第三者の関わる生殖技術について考える



国会議員の野田聖子さん(50歳)の出産が大きな話題になっています。野田さんは自身の卵子の加齢により、第三者から提供された卵子と事実婚の夫の精子を使って体外受精を行い、本年1月6日に男児を出産されました。50歳での出産は母体のリスクが高く、羊水過多で予定日より早めの帝王切開での出産となり、赤ちゃんは新生児集中治療室で手当てを受けています。産後の母体も大変なようで開腹による再手術もされたとのこと。また、子どもの出生届も、母親が50歳ということで、すんなり受理されず、法務局の許可を得る必要があったそうですが、先日無事受理されたとのこと。(野田聖子さんのブログより)

野田さんのニュースの影響もあり、最近特に提供卵子について関心を持たれる方が増えて来ました。このような、第三者が関わる生殖技術とはどういうことか?今回のテーマにしたいと思います。

第三者が関わるって生殖技術って?

夫以外の精子を妻の子宮内に注入する「非配偶者間人工授精(AID)」、妻以外の卵子と夫の精子を体外受精して妻の子宮内に戻す「提供卵子による体外受精」、夫婦の受精卵を第三者の女性の子宮に移植して出産してもらう「代理出産」、提供卵子と夫の精子による受精卵を第三者に出産してもらう「代理出産」、他にも、夫の精子を第三者の女性の子宮内に注入する「人工授精型代理出産」もあります。

また、それぞれの技術において、シングル、同性カップル、性同一性障害でパートナーが性転換したカップルの利用も可能です。

非配偶者間人工授精は(AID)は60年以上も前から行われていますが、その実態は明らかではありません。それは、医師、依頼者夫婦、精子提供者もそのことについて一切語らずに行われてきたからです。子どもには事実を隠し通す方がよい、何も知らない方が幸せであると言われてきました。しかし現実には、この技術で生まれた人たちは様々な問題に苦しんでいます。大人になってから隠されてきた事実を知ること、親への信頼感情が揺らいだり、アイデンティティの崩壊にもつながります。また、自分の遺伝的ルーツが半分わからないということは、自分の体質や遺伝病等に不安を抱くことにもなります。これは提供卵子においても同様のことが考えられます。

現在日本では生殖技術の法制化に向けた議論が進められていますが、技術の条件整備だけではなく、当事者たちの心の問題が置き去りになってしまっているのが現状です。そして、出自に関する子どもの権利と福祉を守るためのシステム整備が重要であると思われます。

生殖技術をテーマにした映画、ドラマ、書籍、報道番組のお知らせ

- ☆『ジーン・ワルツ』海堂尊の小説映画化 2月5日より上映中
- ☆『マドンナ・ヴェルデ』海堂尊の小説 NHKドラマ 4月12日～火曜22時～22時48分(6回)ジーンワルツの裏編で娘の子どもを産むことになった主婦(松坂慶子役)のストーリー
- ☆『空にいちばん近い幸せ』LISMOドラマ ジーンワルツのアナザーストーリー 母親役に矢田亜希子 2010年12月3日～5回配信
- ☆『ひそやかな花園』角田光代著 AIDで出生した子供と家族がテーマ
- ☆『この国で産むということ』野田聖子・根津八紘共著 1月25日発売
- ☆『ニュース ZERO』3月3日前後放送予定 野田聖子氏インタビュー、米国の代理母・卵子提供エージェンシーインタビュー等(番組制作にあたり生殖心理カウンセラー、遺伝カウンセラーが協力しました)

2月・3月のカウンセリング予定日

2月5日、12日、19日(不妊学級3時～5時)、26日
3月5日、12日、19日(不妊学級3時～5時)、26日

